

[ 横浜にぎわい座 ]  
平成 23 年度業務報告及び収支決算  
[ 公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団 ]

- ※ 文中の事業欄において、  
●：主催事業。○：共催事業  
を示します。
- ※ 文中の達成指標、達成状況欄において、  
□：定量的指標。■：定性的指標  
を示します。

1 施設の概要

|         |  |
|---------|--|
| 施設名     | 横浜市芸能センター 横浜にぎわい座  |
| 所在地     | 中区野毛町 3-110-1  |
| 構造・規模   | 鉄骨鉄筋コンクリート造 地下 3 階地上 13 階建ての地下 2 階から地上 4 階、及び地上 5 階部分の各一部を専有 |
| 敷地・延床面積 | 専有面積 4358.97 m <sup>2</sup>                                  |
| 開館日     | 平成 14 年 4 月 13 日   |

2 指定管理者(代表構成団体)

|       |                                     |
|-------|-------------------------------------|
| 法人名   | 公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団                  |
| 所在地   | 横浜市中区北仲通 4-40 商工中金横浜ビル 5 階          |
| 代表者   | 理事長 澄川 喜一                           |
| 設立年月日 | 平成 3 年 7 月 10 日                     |
| 指定期間  | 平成 23 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで |

### 3 指定管理者に係る業務総括

#### 平成 23 年度の総括

第二期指定管理期間の初年度となる平成 23 年度は、開館以来、様々な創意工夫により確立してきた横浜にぎわい座ならではの運営手法を「継承」しつつ、時代の変化やニーズに沿った更なる「発展」を目指す取組に着手しました。

#### 【事業の総括】

「横浜にぎわい座夏祭り」などの新規事業に着手した他、教育事業や、他の文化施設やトリエンナーレとの連携事業等を推し進めました。1日から 15 日までの常打ち公演においても、これまでの実績を継承しつつ、文化庁芸術祭参加公演「東西浪曲特選」など特徴ある番組作りを行いました。また小ホールにおける育成公演では定例の出演者の中から二名が新真打に大抜擢されるなど、長年の取り組みが成果に繋がった年でもありました。横浜にぎわい座の中核を成す寄席公演「横浜にぎわい座有名会」についても、「夏のこども寄席」や「芸術祭受賞者公演」などの企画色を打ち出した公演や、落語講座やバックステージツアーを組み合わせた公演も実施し、集客力向上に努めました。しかし主催興行全体のチケット販売については震災以降の低減傾向の影響もあり、予算を大幅に下回る結果となりました。この点については次年度の開場十周年を契機として、広報活動を中心とした改善に取り組みます。

#### 【運営の総括】

大衆芸能専門館ならではの特性と専門性を活かし、落語会開催のためのノウハウを利用者に提供する等、利用者の満足度向上に向けた取り組みを積極的に行いました。

施設利用促進に向けては、稽古場としての活用方法を発信し、新規利用者の獲得をはかりました。さらに、施設利用者との協働でインターネットを介した動画の有料生配信を実施することにより、施設の新たな活用方法を発信しました。

#### 【管理の総括】

「安全・安心・快適」に留意して業務にあたりました。主催興行開催時に配布のアンケートや館内設置のアンケートボックスに投函されたお客様の“生の声”を施設内で迅速に共有し対応に努めました。

開館十年を目前に、老朽化による修繕案件の発生が増加傾向にある中、小破修繕には迅速に対応するとともに、予防保全も含めた計画的かつ効率的な修繕計画を作成し、所管課との情報共有を積極的に行いました。

## 4 自主事業に関する総括

### (1) 鑑賞機会提供の安定的開催と充実について（市民ニーズに応える演目構成）

- ◆質の高い公演を安定した体制の中で確実に開催
- ◆入場料収入が事業経費を上回る収支構造の維持  
団体客の誘致による集客へのテコ入れを図ります。

| 達成指標   | 実施内容報告   |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■大衆芸能専門施設として、「常打ち公演（毎月 1 日～15 日）」を中心とした主催事業を年間 240 公演以上実施。</li> <li>■基幹シリーズ公演の常時大入り(300 名以上)達成します。</li> <li>■拡充を図った「有名会」の平日平均 150 名、土日 200 名の入場者数を目指します。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●主催事業を、「常打ち公演年間」「若手実演者育成公演」等を合わせて 266 公演実施しました。</li> <li>●「志の輔noにぎわい」「天下たい平」「志らく百席」等の基幹シリーズは、常時大入りを達成しました。また、柳家三三六ヶ月連続公演といった、新しく取り組んだシリーズ企画も多数の大入りとなりました。</li> <li>●有名会の平均入場者数は目標を下回りました。次年度、開場十周年を契機とした団体（特に新規）への販促活動を実施するなどの取り組みを行います。</li> </ul> |

### (2) 横浜にぎわい座からの創造発信（創造・挑戦的な取り組み）

- ◆オリジナリティの高い大衆芸能の発信

大御所から今まさに旬の嘶家、これから活躍の期待される若手まで、マニアから初心者まで幅広くご来場いただける公演を提供します。好評の独演会、シリーズ公演の継続と、記念公演・真打昇進披露など、タイムリーな興行をバランスよく実施します。

- ◆後世につながる作品づくり

| 達成指標  | 実施内容報告   |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■幅広い集客を見込んだバラエティに富んだ内容の公演提供を心掛け、横浜にぎわい座ならではのオリジナリティの高い公演を実現します。</li> <li>■単に新作を発表するという事ではなく、創造された作品が、定期的に「再演」されるシステム構築を目指します。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●六ヶ月連続企画「嶋衛沖白浪」や「江戸糸あやつり人形・浪曲コラボレーション公演」、12/31 実施の「新年カウントダウン寄席」など、「にぎわい座ならではの」と言える、特徴的な企画を実施しました。</li> <li>●全施設を開放して開催する複合型イベント「横浜にぎわい座 夏祭り」の中で「東京四派 若手精鋭そろい踏みの会」を実施するなど、次年度以降に繋がる公演を実施しました。</li> </ul> |

### (3) 横浜にぎわい座を拠点とした若手実演者育成について（若手実演者等人材育成への取り組み）

- ◆若手実演家を育成する仕組みづくり

若手実演者を芸能ホール公演へ積極的に起用し、小ホールで開催されている若手育成公演の発展・活性化をめざします。小ホール育成事業で出演している実演者の芸能ホール公演起用のほか、若い実演者に焦点をあてた企画公演を実施していきます。

| 達成指標  | 実施内容報告  |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■小ホールで育成事業を開催している若手実演者を、芸能ホールで年間延べ 10 回以上起用します。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●小ホールで育成事業を実施の若手実演家の、芸能ホール公演への起用は、年間延べ 20 回の出演がありました。</li> <li>また、小ホール育成事業としてシリーズ企画を実</li> </ul> |

|   |  |
|---|--|
| <p>■若手実演者を中心とした企画公演「新風落語会」を年間3回以上開催します。</p> | <p>施している春風亭一之輔と古今亭菊六が、大抜擢で真打昇進することが決まり、演芸会の大きな話題となりました。</p> <p>●「新風落語会」は、4・6・7・12月の計4回の実施となり、大入りも達成しました。</p> |
|---|--|

**(4) 多様な世代に向けた教育普及活動の拡充について（子供の創造性育成について）**

◆教育普及事業の拡充  
 次世代の落語・演芸ファン育成という目的とともに、子どもの感性や創造性を高めるため、本物を鑑賞する機会・体験する機会・学ぶ機会、を柱に子どもを対象とした事業を実施します。

◆生涯学習講座の拡充  
 野毛で実施する学生中心の講座から、近隣みなどみらい地区で行われる一般向け講座へと、受講対象者と開催地の幅を広げ、大衆芸能の更なる振興を図ります。

| 達成指標  | 実施内容報告   |
|---|--|
| <p>■近隣小学校を対象に、「寄席体験プログラム」への参加者数合計1,000名以上を達成します。</p> <p>■子ども、親子を対象とした「こども寄席」を開催します。</p> <p>■落語を通じての表現の講座、奇術・紙切りなどの体験ワークショップを開催します。</p> <p>■「野毛まちなかキャンパス」への社会人参加の促進やみなどみらい地区にあるカルチャーセンター(NHK文化センター)と連携した大衆芸能講座により、大衆芸能初心者へのアプローチを図ります。</p> | <p>●7・9月に、近隣区小学校16校・約1600名の生徒を対象に“寄席体験プログラム”を実施。これまでに参加のなかった小学校にもアプローチし、本プログラムの周知拡大ができました。</p> <p>●「有名会」の特別企画として、8/6「夏のこども寄席」を実施しました。近隣小学校の放課後キッズクラブの来場もあり、多くの子どもたちの来場がありました。</p> <p>●「にぎわい座夏まつり」の中で、“紙切り”、“寄席文字”の体験講座を、それぞれ親子向け、大人向けとして対象を設定。募集上限の応募があり、鑑賞だけではなく、寄席文化を様々な面から体感できる企画として好評を得ました。</p> <p>●「野毛まちなかキャンパス」は、「横浜の大衆芸能と横浜にぎわい座の舞台裏」、「野毛山節の唄と踊りの体験」、「大道芸を活用した、野毛の地域再生」の3講座で参画しました。また、NHK文化センターとの連携事業として、文化センターの講義と、当館の「有名会」を組み合わせた講座を2件実施しました。</p> |

**(5) 連携による大衆芸能振興の展開について（連携事業）**

◆近隣施設等と協働実施している事業の継続  
 急な坂スタジオ、STスポットとの連携事業「坂あがりスカラシップ」を継続実施します。事業全体の見直しをおこない、公演発表を主目的とせず、のげシャレーや近隣文化施設を使い、横浜でじっくりと作品制作に取り組めるプログラムにしていきます。これまで行ってきた横浜商科大学・野毛地区街づくり会との連携事業「野毛まちなかキャンパス」も引き続き実施していきます。

◆財団運営の専門施設と連携した事業やサービスの展開  
 財団が運営する専門施設間の意見交換、情報共有を進めていき、相互の専門性を生かした連携事業実施や共通機能を集めた効果的な事業実施を検討していきます。財団を挙げて取り組む、「横浜トリエンナーレ」や「横濱JAZZプロムナード」についての協力体制を整えます。

| 達成指標 | 実施内容報告 |
|------|--------|
|------|--------|

|   |  |
|---|--|
| <p>■他施設との連携を深め、若手舞台芸術家が作品制作をする上でのベストな環境を整えます。</p> <p>■「坂あがりスカラシップ」支援対象者2名以上選出。のげシャールを使用して作品制作過程公開やアーティストトーク開催。</p> <p>■平成23年度も「野毛まちなかキャンパス」に参画し、体験型講座と講義形式の講座の2講座を提供します。</p> <p>■財団内専門施設間で定期的にミーティングを開催します。</p> <p>■「横浜トリエンナーレ」のテーマと連動した、自主事業実施の検討。</p> <p>■「横濱 JAZZ プロムナード」会場としての運営協力。</p> | <p>●普段は大衆芸能との接点の少ない「象の鼻テラス」に対して落語会への制作協力をを行い、初めて落語を観る機会を提供しました。</p> <p>●坂あがりスカラシップは今年度3名の支援対象者となりました。今回は対象者同士の交流を積極的におこなったこと、京都で活動するアーティストを対象者としたこともあり、他都市(京都)での公演の実現や、TPAM への参加など、今後への発展性のある支援体制となりました。</p> <p>●「野毛まちなかキャンパス」は、「横浜の大衆芸能と横浜にぎわい座の舞台裏」、「野毛山節の唄と踊りの体験」、「大道芸を活用した、野毛の地域再生」の3講座で参画しました。</p> <p>●財団内「専門施設連携プロジェクト」として、担当者間のミーティングを定期的に開催し、情報交換を行いました。</p> <p>●ヨコハマトリエンナーレのタイトル「OUR MAGIC HOUR」に関連付けて、日本伝統の奇術「和妻」の第一人者、藤山晃太郎氏を横浜にぎわい座より横浜美術館に紹介。「和妻」を美術館内の数か所でおこない、新たな客層に大衆芸能の楽しさを周知することができました。</p> <p>●今年度の「横浜 JAZZ プロムナード」は、実行委員会の都合により「のげシャール」は会場とならなかったものの、運営協力として、職員2名がチーフとして他会場での協力を行いました。<br/>また、JAZZ を活用した地域振興を主旨として開催された野毛のイベント「NOGE JAM FESTIVAL」に共催として参加しました。</p> |
|---|--|

**(6) 大衆芸能に関わる市民活動への支援について（市民協働による事業や運営の展開）**

◆アウトリーチ、市民協働に対応する「コーディネート」「相談」機能の整備  
 大衆芸能の可能性を模索する試みとして、教育・福祉・医療分野等の関連団体との協働事業を行います。特に、落語に代表される大衆芸能の持つ、「笑い」や「機微」の効用を念頭に業務遂行に努めます。

| 達成指標   | 実施内容報告  |
|--|---|
| <p>■取り組みの初年度として、教育・福祉・医療の3分野における、協働の相手方に関する情報収集及び協働手法を検討するとともに、最低2事業以上を立ち上げます。</p> | <p>●「教育」分野では、「教育プログラム」のコーディネーターを3校担当し、各校でプログラムを実施しました。また、地元の本町小学校の総合学習活動支援の一環として「落語」の研究のサポートを行い、児童の公演への招待、施設職員による学校を訪問レクチャー、学習発表会の開催の補助を行いました。<br/> 「福祉」分野では、「ヨコハマいきいきポイント」への特典提供を通じて、担当部局との情報交換を行いました。</p> |

**(7) 大衆芸能情報センターとしての情報拠点化について**

◆各種メディア、各地の公演内容等の情報収集・提供  
 新聞やテレビ報道のみならず、インターネットやロコミまで、大衆芸能に関する情報収集に努めます。

横浜市内のみならず、東京都内やその他近郊にて開催される公演チラシの収集拡大による配架チラシの拡充を目指します。また、演者の会報類などチラシ以外の配布物も積極的に配架します。

◆大衆芸能に関するよろず相談サービスの展開

◆電子大福帳の活用

平成 23 年度も横浜にぎわい座で実施する自主事業内容を「電子大福帳」上に管理し、定期的にデータ分析を行い、お客様に向け情報提供していきます。

◆展示事業の展開

2階情報コーナーにおいて、様々な角度からの大衆芸能資料を「企画展」という形で展示し、気軽に大衆芸能に触れていただける情報提供環境を整えます。

| 達成指標   | 実施内容報告   |
|--|--|
| <p>■職員各自が大衆芸能関連情報収集に対する高い意識を持って業務遂行に努めます。</p> <p>■横浜市内外からも広く公演チラシを収集し、前年度の配架量の10%増を目指し、情報コーナーの情報量拡充を目指します。</p> <p>■演者や演目に関する質問や演芸会開催の相談など、様々な問い合わせに対し柔軟に対応できる窓口機能を有します。</p> <p>■年2回刊行の機関誌の誌面上にて、各回とも電子大福帳データを読み物として楽しめる形で提供していきます。</p> <p>■2階情報コーナーにて、常設展に加え年4回の「企画展」を開催します。</p> | <p>●各職員は、積極的に大衆芸能関連情報収集に努め、高い意識を持って業務を遂行しました。</p> <p>●公演情報の集積や施設等の情報の収集(年間1,675種のチラシ配架)し、お問合せに対する随時の対応は適切に行いました。また、受付まわりのパンフレット配架スペースを拡大し、来館者に、大衆芸能に関するより多くの情報を、継続して提供しています。</p> <p>●施設利用者の相談に対しては、より効果的かつスムーズな施設活用方法を丁寧に説明しています。</p> <p>●季刊誌“にぎわい座のツボ”ページにて、電子大福帳より抽出したデータをもとにした情報を掲載しました。</p> <p>●年度中4回の展示企画を実施しました。<br/>4/16～26「プレイバック野毛大道芸」<br/>6/11～7/1「野毛大道芸フォトコンテスト」<br/>8/1～29「中嶋修・横浜にぎわい座を描く<br/>～2011 夏～」<br/>3/14～4/15「お笑いぱっちり倶楽部寄席」写真展</p> |

(8) 地域活性化への貢献について (街のにぎわいづくりへの寄与)

◆地元団体との協力による事業展開

平成 23 年度も引き続き、地元地域の代表団体である「野毛地区街づくり会」との連携を中心に街のにぎわいづくりに努めます。また、「みなとみらい地区」に在住・在勤の人たちをターゲットとした人の流れの演出についても取り組みます。

| 達成指標   | 実施内容報告  |
|--|---|
| <p>■来場者が地元の飲食店等に流れるような相互割引制度(例:チケット半券⇔飲食店レシート)の設立を実現します。</p> <p>■「みなとみらい地区」在住・在勤者に対するの販売促進のシステムを構築します。</p> | <p>●地域との連携として、地元飲食店との相互割引チケット「野毛通手形」へ参加しました。また、野毛地区振興事業協同組合との「チケット購入補助券」制度を実施し、多数地元の方の来場をいただきました。</p> <p>●「みなとみらい地区」への広報・周知策として、みなとみらい地域のケーブルテレビへ公演情報の提供を開始しました。</p> <p>また、近隣地域との連携のため、近隣区役所と連絡体制を構築し、「中区民祭り」へのPRのための協賛提供、西区の転入者への資料配布企画への参加(資料の配布は24年度よりスタート)を行いました。</p> |

(9) 市の文化政策との連携について (都市戦略との連携)

| <p>◆創造都市施策推進に協力</p> <p>横浜市の都市戦略を推し進めるために、大衆芸能専門施設として、「地域へのアウトリーチ・教育普及事業」、「専門分野に関する支援・相談事業」、「国際交流への対応」などに取り組みます。</p> |  |
|---|--|
| 達成指標  | 実施内容報告   |
| <p>■新規展開への初年度として、アウトリーチ事業(教育普及目的)を2事業以上実施します。</p> <p>■相談窓口機能の拡充、HP・広報物における外国語表記の検討及び実施を行います。</p>                    | <p>●「教育プログラム」のコーディネーターを3校担当し、各校でプログラムを実施しました。</p> <p>●24年度の施設Webサイトのリニューアルにあわせて、英語版の施設紹介ページを設ける予定です。</p> |

## 5 施設運営に関する業務総括

| (1) 大衆芸能専門館としての顧客満足度の高い運営について   |  |
|---|--|
| <p>◆ 専門対応能力とアドバイス力の向上について</p> <p>大衆芸能専門館として自主事業や過去の貸館利用の例など、蓄積されたノウハウをもとに、落語会を開催したい利用者へわかりやすく解説(舞台の作り方等)できるようサービスの向上に努めます。</p> <p>◆ 大衆芸能独特の魅力あるホスピタリティの向上について</p> <p>近隣の大衆芸能の催しを横浜にぎわい座で提供できるよう整備をすすめていきます。</p> |  |
| 達成指標  | 実施内容報告   |
| <p>■ 落語会を開催したい利用者のためのガイドを作成します。</p> <p>■ 横浜近隣での大衆芸能の催しを周知するコーナーを設置します。</p>  | <p>● 季刊誌2号にわたって掲載した小ホールで落語会をする場合の舞台の作り方ガイドをまとめ、落語会で利用するお客様へ配布して好評をいただいています。今後、芸能ホールバージョンの資料も作成予定しております。</p> <p>● 館内のチラシラックに大衆芸能の催し物案内を掲示するスペースを設置しました。</p> |

| (2) 施設の利用促進・利用開発による利用率向上について   |   |
|--|---|
| <p>◆ ホールセールスの展開</p> <p>横浜にぎわい座の施設だけではなく、近隣の施設情報を収集し、相互の利用促進がはかれるような仕組みを作ります。</p> <p>◆ 施設別促進策の展開</p> <p>昨年度リサーチした施設の改善点を参考にし、利用環境の整備を積極的に推進しています。</p>   |   |
| 達成指標   | 実施内容報告  |
| <p>■ ホールセールスを積極的に展開し、各室場とも対前年度増の利用率を目指します。</p> <p>目標利用率<br/>芸能ホール80%、小ホール55%、練習室80%、制作室35%</p> <p>■ 近隣施設の情報提供及び交流促進します。</p> <p>■ リハーサル割引の拡充を検討・実施します。</p> <p>■ 施設の利用規約を改訂します。</p> <p>■ 利用の手引きを改訂します。</p> <p>■ 地下室場のインターネット環境を整備し、利用環境を整備します。</p> | <p>● 目標の利用率は小ホールのみ達成となりましたが、小ホールと制作室は前年度より増となりました。芸能ホール74%、小ホール56%、練習室68%、制作室31%</p> <p>● 野毛界隈で開催されるイベントや近隣施設で開催される落語会の周知を積極的に行いました。</p> <p>● 新規リハーサル割引導入に向け、小ホール練習利用半額キャンペーンを試験的に実施しました(3月実施、1件利用)。</p> <p>● 施設の利用規約は課題を抽出し一部改善をしました。改善にあたり時間を要するものもあるため、今後も利用者の視点から改善をすすめていきます。</p> <p>● 利用の手引改訂をおこないました(3月25日)。</p> <p>● 地下の室場のインターネット環境の整備は実施できませんでしたが、協力事業としてにぎわい座のLAN回線を使用したネット配信公演を芸能ホールで実</p> |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>施しました。芸能ホールと同じ LAN 回線が地下にも届いているため、引き続き導入に向けた整備をすすめます。</p> |
|--|--|

**(3) ニーズに基づくサービスの向上について**

- ◆ 多角的ニーズの把握・分析  
従来の公演アンケートに加え、横浜にぎわい座・演芸一般へ自由に意見をいただける季刊誌のアンケートを継続します。
- ◆ サービスの開発・提供  
川柳などの遊びの形もとりいれ、不満・好評様々な意見を吸い上げやすくするよう心がけます。また、その内容を季刊誌に掲載していきます。
- ◆ 苦情処理への対応とその反映  
お客様の苦情には、丁寧に対応していきます。

| 達成指標   | 実施内容報告   |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 季刊誌を年 2 回刊行し、お客様の声も掲載します。</li> <li>■ 年 1 種以上の新規グッズ開発あるいは改良を実施します。</li> <li>■ お客様の苦情に対しては、誠実かつスピーディに対応します</li> <li>■ 年 2 回刊行の季刊誌でも、川柳等の遊びの形を取り入れて、積極的にお客様の声を掲載していきます。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 季刊誌の発行は1回となりましたが、お客様の声の掲載は実施しました。今後は紙の冊子での発行が適切であるかどうかの再検証と、Web、メール等多角的な発信方法をあわせて検討します。</li> <li>● 正月興行にあわせて2種類の福袋を開発、販売し、計120個完売となりました。また、オリジナルグッズ以外についても、お客様の動向に合わせたグッズ販売を行いました。</li> <li>● 施設エントランスの灰皿(屋外)を移動するなど、苦情・要望へ迅速に対応しました。</li> <li>● 読者のひろば欄において、5 件お客様の声とその回答を掲載しました。</li> </ul> |

**(4) 開館日数について**

|       |
|-------|
| 23 年度 |
| 341日  |

**(5) 利用状況等について**

| 施設名   | 23 年度    |          |
|-------|----------|----------|
|       | 稼働率      | 利用者人数    |
| 芸能ホール | 74%(71%) | 66,937 人 |
| 小ホール  | 56%(46%) | 18,439 人 |
| 練習室   | (68%)    | 4,023 人  |
| 制作室   | (31%)    | 1,070 人  |

※稼働率: 日にち単位(時間帯単位)

## 6 施設管理に関する業務総括

### (1) 安全・安心・快適な施設の維持管理について

| <p>◆快適な環境維持について<br/>お客様アンケートを実施し、施設評価の満足度の向上を目指します。</p> <p>◆施設の安全確保について<br/>大衆芸能専門館として、あらゆる面から安全確保に努めます。高齢者及び身体障がい者にも思いやりあふれる体制づくりを推進します。</p> |   |
|---|---|
| 達成指標  | 実施内容報告  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■ アンケートの“快適評価”4.5点達成</li> <li>■ 施設ハード面での人身事故『ゼロ』の実現</li> <li>■ サービス介助士2級取得者1名以上獲得</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 23年度の快適評価は4.40でした。</li> <li>● 年間で人身事故は『ゼロ件』でした。</li> <li>● 本年度、サービス介助士2級1名取得。</li> </ul> |

### (2) 施設予防保全への取り組みについて

| <p>◆効率的な保守管理への取り組みについて<br/>全館各個所の日々整備点検実施を目指します。施設管理業者との定例ミーティング実施します。<br/>(舞台装置・照明・吊物・エレベータ・空調他)マンション理事会との調整・連携強化。)</p>   |   |
|--|---|
| 達成指標   | 実施内容報告  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 職員レベルで対応可能な修繕は即実行。<br/>(⇒10日以内に作業完了)</li> <li>■ 施設管理業者との定例ミーティングにより、早期に危険を予知(KYの徹底と共に事前管理の徹底)し、発生費用の抑止効果を図ります。</li> <li>■ 毎月1回の理事会に参加し、3者共通情報の一元化を目指します。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 簡単修理は、ほぼ1週間以内に完了。</li> <li>● 危険予知活動は、毎月管理業者とのミーティングにて事前チェックを徹底。</li> <li>● マンション理事会への参加により、施設管理強化に努めています。</li> </ul> |

### (3) その他管理に関する実施業務 (概ね百万円以上または第三者に委託して実施するもの)

| 業務内容         | 実施者                    |
|--------------|------------------------|
| 舞台技術業務       | 委託により実施: 株式会社横浜アーティスト  |
| 建物総合管理業務     | 委託により実施: 株式会社東急コミュニティー |
| 舞台機構保守点検業務   | 委託により実施: 株式会社東急コミュニティー |
| 舞台音響設備保守点検業務 | 委託により実施: 株式会社東急コミュニティー |
| 舞台照明設備保守点検業務 | 委託により実施: 株式会社東急コミュニティー |

## 7 収支について

### (1) 経費削減や効率的運営の努力について

| <p>◆ 安定経営を維持するための経費削減への取組みについて</p> <p>年々増加傾向にある修繕費については、引き続き中期的計画を策定し、効率的な資源活用に努めます。環境への配慮と長期的視野に立った管理費削減(おもに光熱水費・消耗品費)を推進するため、LED 電球導入計画を立て、順次導入します。</p>         |   |
|---|---|
| 達成指標  | 実施内容報告  |
| <p>■ 平成 23 年度版「5 カ年の修繕計画」を策定。緊急度と予算執行状況を勘案しつつ、効率的な経費執行に努めます。(平成 23 年度修繕費予算:3,000 千円内での執行遵守。)</p> <p>■ 中期の「LED 導入計画」を策定し、平成 23 年度より、消耗品費の中に当該年度の購入予定分を予算計上します。</p> | <p>● 下半期も緊急度と予算状況を勘案しつつ、効率的かつ効果的に修繕案件を実行し、修繕執行額 3,000 千円以内を遵守することが出来ました。</p> <p>● LED導入については、上半期に設備管理会社や舞台技術スタッフを含めた協議を行いました。結果、現段階では予算と性能(長時間使用の場合の目の負担や顔色悪く見える)が折り合わないと判断し、当該案件は延期しました。</p> |

### (2) 外部資金導入等指定管理料のみに依存しない収入構造について

| <p>◆ 経営安定を維持するための収入向上への取組みについて</p> <p>入場料収入、利用料金収入、企業協賛金、助成金、グッズ販売などを、ケースに応じた対応で積極的に獲得していく事により、運営原資において「指定管理料」のみに依存しない経営体制を構築します。</p>  |   |
|--|---|
| 達成指標   | 実施内容報告  |
| <p>■ 今年度も引き続き、主な収入源としては、経常事業における、「入場料収入」を念頭に運営を進めます。これに伴い、集客力のある事業実施のみならず、「団体営業」「割引制度拡充」「サービス向上」などの努力や工夫による有料来場者の増加を目指します。</p> <p>■ また、撮影協力費や企業タイアップによる外部資金の導入についても、収入増を目指します。</p> <p>■ 平成 23 年度事業収入:155,500 千円の達成<br/>平成 23 年度その他収入:3,000 千円の達成</p> | <p>● 「団体営業」の足掛かりとして、旅行代理店とタイアップした「有名会体験とバックヤードツアー」を7・8・12月に実施。加えて、3月には神奈川県観光協会と市内観光ルートに当館バックヤードツアーを実施。次年度以降の「団体営業」や「広報強化」に結びつくような活動を行いました。</p> <p>● 撮影協力等による外部資金の導入は、本年度は7件約700千円でした。次年度以降も、主催事業の収録と、施設貸館でのテレビ番組の収録の、両方の形での提案を受けており、引き続き撮影等の積極的な誘致により、収入増と施設周知に努めます。</p> <p>● 震災の影響による来場者数の落ち込み等により入場料収入は139,069千円となり、事業収入の目標額達成はなりませんでした。次年度、開場十周年を広報・販促活動の絶好の契機と捉え、入場料収入増に努めます。</p> |

| 平成23年度 横浜にぎわい座収支一覧 |        |             |              |              |              |
|--------------------|--------|-------------|--------------|--------------|--------------|
| 収入                 | 項目     | 予 算         | 決 算          | 差異(決-予)      | 備考           |
|                    | 指定管理料  | 190,901,000 | 190,901,000  | 0            | 横浜市より        |
|                    | 利用料金収入 | 19,500,000  | 18,603,200   | ▲ 896,800    |              |
|                    | 事業収入   | 155,500,000 | 139,069,531  | ▲ 16,430,469 |              |
|                    | その他収入  | 2,000,000   | 1,603,724    | ▲ 396,276    |              |
|                    | 合計     | 367,901,000 | 350,177,455  | ▲ 17,723,545 |              |
| 支出                 | 項目     | 予 算         | 決 算          | 差異           | 備考           |
|                    | 人件費    | 92,794,000  | 90,115,522   | ▲ 2,678,478  | 館長、職員9+アルバイト |
|                    | 管理費    | 120,307,000 | 118,974,227  | ▲ 1,332,773  | 施設管理委託費ほか    |
|                    | 事業費    | 138,400,000 | 141,248,730  | 2,848,730    |              |
|                    | 事務費    | 16,400,000  | 16,738,928   | 338,928      |              |
|                    | 合計     | 367,901,000 | 367,077,407  | ▲ 823,593    |              |
|                    | 当期収支差額 | 0           | ▲ 16,899,952 | ▲ 16,899,952 |              |

## 8 その他

### (1) 人員配置及び勤務体制について

#### ① 人員配置

| 項 目              | 人 数 | 備 考         |
|------------------|-----|-------------|
| 館 長              | 1   | 非常勤         |
| 副館長              | 1   | 課長補佐級       |
| 管理運営/事業運営チームリーダー | 2   | 係長級         |
| 事務職員             | 6   | 管理系 3、事業系 3 |
| アルバイトスタッフ(事務)    | 3   |             |
| カルチャースタッフ(受付)    | 28  | にぎわいスタッフ    |
| 舞台技術スタッフ         | 5   |             |

#### ② 勤務体制

基本：館長、副館長、ホールセールス専任者を除くスタッフでのローテーション制による運営。

各日の事業状況、貸館状況によって配置人数は変動。

A：事務室(早番 9:30～18:15 最小2名、 遅番 13:30～22:15 最小2名)  
 管理運営チームリーダー・事業チームリーダー、事務職員、アルバイトスタッフ

B:受付窓口業務(A勤務 9:45~13:55 B勤務 13:45~17:55 C勤務 17:45~22:00)  
C:舞台技術(総括、音響、照明、舞台など事業及び貸館状況によって変動)